

7月21日(水曜日)

ドル/円

## バーナンキ議長の証言に注目

### 20日(火)の主な推移

チャート: 30分足 20日(火)朝6時 ~ 21日(水)朝6時

ダウ平均株価

10229.96ドル  
(+75.53ドル)

米長期金利  
(10年債利回り)

2.9535%  
(-0.0091%)

NY原油先物

77.44ドル  
(+0.90ドル)



※チャートは30分足 日本時間にて表示 ※左表は終値ベース、( )は前日比  
出所:外為どっとコム

- ① 安寄りした日経平均が下げ幅を縮小する中、ドル/円相場では円安・ドル高が進行した。ただ、午後に入り日経平均の上値は重く、小高く寄り付いた欧州株が軟化していく中でドル/円は再び86円台後半まで値を沈めた。
- ② 21時30分に発表された米6月住宅着工件数は54万9000件と、市場予想(57万7000件)を大幅に下回った上、前月分も59万3000件から57万8000件へ下方修正となった。ただ、先行指標となる6月建設許可件数は58万6000件と市場予想(57万5000件)を上回った。こうした強弱入り混じる結果を受け、発表直後のドル/円は方向感が出ず、乱高下した。
- ③ 前日のNY株式市場引け後に発表されたIBMやこの日の寄り付き前に発表されたゴールドマン・サックスの決算が予想を下回ったことからNYダウ平均が大幅に下落して始まった。しかしその後、日本時間22日3時に行われる米連邦準備制度理事会(FRB)のバーナンキ議長の議会証言にて、同議長が追加緩和について言及するとの観測が台頭すると、株が大幅に反発。この株の反転上昇を背景に円は全面的に下落。ドル/円は21日早朝に87.58円の高値をつけた。

### 上昇要因(ドル高・円安)

- ・米国経済の回復
- ・米長期金利の上昇
- ・米国の超低金利政策の長期化観測の後退
- ・金融市場全体のドル売りムードの緩和
- ・日銀の追加緩和観測
- ・日本の財政赤字への懸念

### 下落要因(ドル安・円高)

- ・米金融規制案への懸念
- ・米国の超低金利政策の長期化観測
- ・米長期金利の下落
- ・米国経済の回復の鈍化
- ・米財政赤字悪化懸念の高まり

### 本日の見通し

本日の予想レンジ: 86.50- 88.10円

本日の一番の注目は、昨日の相場で話題をさらったバーナンキFRB議長の議会証言で、焦点は追加緩和に踏み切るかどうかだ。この追加緩和観測が浮上した背景にあるのは米国の経済指標に弱い内容のものが続いている点だが、14日に発表された米連邦公開市場委員会(FOMC)議事録にて、「景気が目立って悪化した場合には金融緩和の必要性を検討すべき」との議論があったことは明らかになっており、FRBの地区連銀総裁の間でも懸念は強いものとみられる。ただ、元来バーナンキFRB議長は連銀総裁らの意見が偏り始める局面においても慎重な見方を示すことは多く、今回も踏み込んだ発言をしない可能性はある。その場合、昨日台頭した追加緩和への期待が剥落し、それを背景に昨日上昇したドル/円は一旦反落することも考えられる。ただ、実際に追加緩和に一步踏み込んだ発言をした場合には、株高に拍車がかかり、ドル/円はもう一段上昇するとみる。(ジェルベズ)

### 本日の注目イベント

※注目度が高い順に「◎」「○」「無印」で表示 時間は「日本時間」

日付	時間	注目度	経済指標、イベント等	前回発表数値	市場予想
7/21(水)	21:00	○	(米) モルガン・スタンレー第2四半期決算	—	—
	21:00	○	(米) ウェルズ・ファーゴ第2四半期決算	—	—
	27:00	◎	(米) バーナンキFRB議長の議会証言	—	—

※発表時刻は予告なく変更される場合があります。また、※予定一覧は信頼性の高いと思われる情報を元にまとめておりますが、内容の正確性を保証するものではありませんので事前にご留意くださいますようお願いいたします。

本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2010 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com